

# カトリック 仙台教区報

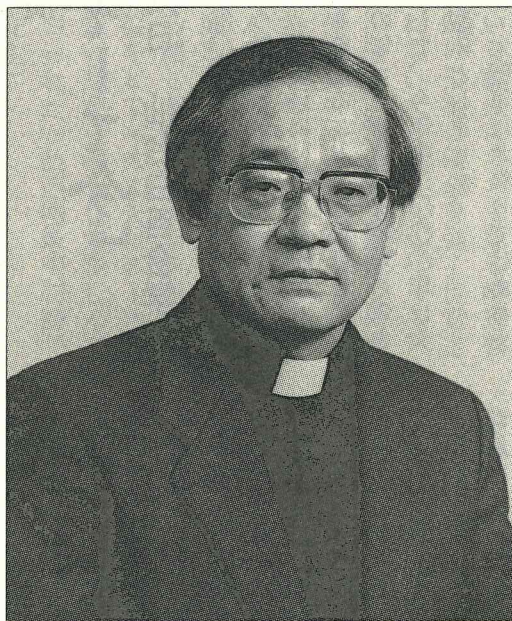
2000年 8月25日 No.138

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

☎(022)222-7371 FAX(022)222-7378



▲仙台教区  
司教・教区長  
溝部 脩 神父

教皇ヨハネ・パウロ二世は、六月十二日、新仙台教区長・司教に、溝部脩（おさむ）神父（サレジオ会員・長崎コレジオ神学院々長）を任命しました。

日本各地の司教と信徒多数が出席して行われます。溝部司教と同時に、東京大司教に任命された岡田武夫司教（浦和教区教区長・司教）の大神司教着座式は、九月三日に、東京関口のカテドラルにおいて、白柳枢機卿司式によって行われます。また、浦和司教・教区長に

仙台教区長に  
フランシスコ・ザビエル  
溝部 脩 神父  
叙階式は九月九日

は谷大二神父（教区事務局長）が任命され、九月十五日に叙階式、大分教区の司教・教区長には宮原良治神父（長崎大司教館勤務）が任命され、叙階式・着座式は十月一日に行われます。

### 溝部 脩司教略歴

- 本籍 山口県萩市
- 一九三五年（昭和十年）三月五日現北朝鮮のシンウイジュ（新義州）に生まれる。
- 一九五三年三月宮崎日向学院卒。
- 一九五六年サレジオ短期大学卒、□一九六四年教皇庁立サレジオ大学神学部卒。
- 一九六七年教皇庁立グレゴリオ大学、□一九七二至上智大学史学科博士課程終了。

### 職歴

- 一九六四年に司祭叙階後、大分カトリック司教区司教秘書就任（一九六七年）、大分カトリック司教区青少年司牧担当（一九七三年）、調布サレジオ修学院院長就任（一九八四年）、サレジオ修道会管区長、一九九八年四月長崎大司教区・長崎コレジオ神学院長に就任。二〇〇〇年六月十二日仙台教区長・司教

## 生命の泉

第二バチカン公会議の成果が四旬節第一主日の「赦しを願う教皇のミサ」において分かり易く実を結んだ感がある。かつて公会議が開かれた時分「聖霊の息吹が吹き…」などと言われたが、何も具体的にたなことも分からないまま、ただ会議が成功しますようにと祈ったものである。○有名な歴史学者A・トインビーが二十世紀の後半に様々な体制が崩れる中で依然として強固な権威を保持し続けているもの一つに教皇の権威を上げた。氏が生きていたら、過去の過ちを告白し、赦しを求め教皇の姿をどう評価した事だろう。○教会の使徒的善業はいろいろあるが、そこに働く職員はイエスのみ教えの善意の理解者であっても教会という組織の理解者とは言えない。誤ることのない権威としての教会より赦されるべき人間の集団としての教会という自己理解の方が好感を持って迎えてくれるのではないだろうか。「教会はいつも修正されるべき」存在なのです。

(守)

カトリック  
宮城県大会

溝部司教が講演

「大聖年そして今」

七月九日 仙台白百合学園



▶講演する溝部司教

〇〇年に向けて準備をするよう勧告致しました。

一年目にはイエス・キリストを知ること、二年目は聖霊の年、三年目は父に至る年として、今年度二〇〇〇年は大聖年としました。

大聖年はお祭りではありません。この年をどのように生きるかというメッセージをもつて過ごすことです。

私は、イエスの生き方を考える上で、殉教という言葉を題材として取り上げます。

今日、わたしがお話しするのは、一、イエス・キリストを知ること、二、悔い改めること、三、確固たる信念をもつこと、四、イエス・キリストを伝えることの四つであります。まず第一点はイエスを知ることです。

私は、日本司教団の命を受けて、日本の殉教者の調査に二十年間携わって参りました。ペトロ岐部神父は江戸・小伝馬町で殉教しましたが、その

地は今、小さな公園になっています。三百五十年前、岐部神父という人がキリストを信仰していたがために処刑されたということを知らなければ、どこにでもあるような公園であります。

熊本の加賀山氏、小笠原氏の殉教も調査しました。彼らはイエスを知り、生き方を変えさせられました。この上はイエスに従って生きる以外に考えられないという信仰で殉教して行きました。

イエス・キリストにあくなくあこがれ、惚れ込み、ひかれて行き、この人のために生命を捨ててもよいと心より思うことが大切です。パウロは「あの方なしに、私の人生は

何の意味もありません」と言うております。

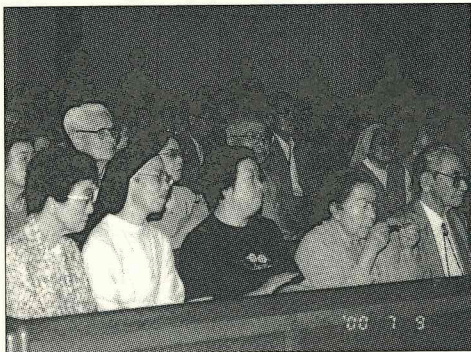
第二は悔い改めることです。

ミラノの枢機卿カール・マルティーニはその著「宣教者を育てるイエス」(絶版)の中でルカ福音書五章に、イエスの最初の弟子となるペトロがイエスと出会って、イエスの言葉に従ったら、大漁となった。そのとき、ペトロは「主よ、私から離れて下さい。私は罪深い者です。」と言うのです。この生き方が大事なのです。

マタイ五章二十一節以降を考えてみましょう。すると、適当に義人で、人殺しはもちろん、不倫などはしない自分をよしとしているではありませんか。性を興味本位で見ているませんか。

イエスを知ったら根っこにある罪深さを知り、その自分を変えなければなりません。罪は一回限りのものではなく、罪のほうに向いてしまう自分が嫌になり、すっぱり変えてもらう。これが、悔い改めです。罪に傾く自分に気づいた

▲講演を熱心に聞く参加者



ら神にゆるしを求めする必要があります。もう一度原点に戻って考えてみましょう。

第三点は確固たる信念を持つこと。

ヨハネ福音書十八章三十七節に「私は真理について証しするためにこの世に来た。真理に属する人は私の声を聞く」と書いてあります。真理について証しするのは殉教です。殉教者はこの世に迎合して生きることはしない。決して譲れない何物があり、そのために死んだのです。

信仰者とは自分の生き方に一本強い背骨が通っていないければなりません。背骨が生きる力を与えてくれます。この世のものに譲って譲って自分を無くしてしまう状態が今の私たちではないでしょうか。

しかし最後に、神様私にはあなたしかいないという信念のある人は強いのです。

第四はどのようにイエスを述べ伝えるかということ。

自分が納得し、消化しているものを人に伝える。自分が納得し、消化していないものを人に伝えようとしても、他人が聞いてくれるでしょうか。

溝部司教講演要旨

教皇さまは、この二〇〇〇年を特別聖年と定め、その二〇

第二十八回カトリック宮城県大会が、七月九日、仙台白百合学園聖堂に、県内の信徒約六百人が集い、午前中は溝部司教の講演、交流会、溝部司教と県内各教会に派遣されている神父の共同司式によるミサがささげられて、有意義な一日が終わりました。

伝えて行きながら徐々に自分のものになって行くこともまた事実です。大切だと思っ  
ている信条を自分に言い聞か  
せることです。イエスの言葉  
によって、あなたは変わらな  
ければならないのです。「聖  
書と典礼」にある主日の書簡  
や福音をよく読んでみてはど  
うでしょうか。

現代人はやさしさばかり求  
めています。信仰は、優し  
さの中に背骨が一本通ってい  
なければなりません。その背  
骨とは自分の確かなメッセー  
ジを持つことです。今あなた  
が伝えたいメッセージは何で  
すか。何も持たないでは何も  
伝えられません。そのメッセー  
ジは、感動して知り、消化し  
ていなければなりません。私  
たちの背骨はキリストです。  
私たちは、ほんとうに感動し  
て納得したメッセージを伝え  
ないでその周辺ばかりを伝え  
ているのではないのでしょうか。  
いろいろ批判はありましょ  
うが、遠藤周作は生涯キリス  
トを求め続けた人だと思いま  
す。悲しい人間の性(さが)  
を描いて止まなかった作家で  
した。

私たちのイエスは、父のみ  
旨を果たすために、自らをい  
けにえとして十字架上で死に、  
自分を死に追いやった人のた  
めに祈るのです。

世の人々からみれば愚の骨  
頂です。私たちが選んだ信仰  
は、その愚の骨頂の生き方を  
するキリストの宗教なのです。

私たちは、こうしたイエス  
の模範と殉教者の生き方に励  
まされて、自分の苦しみ、自  
分の生命までも捧げるよう招  
かれているのです。

いかがでしょうか、皆さんは  
ほんとうにイエス・キリスト  
にひかれて教会に來ているの  
ですか。形だけで、義務を果  
たすために教会に來ていませ  
んか。キリストという方にひ  
かれてひかれて教会に來る。  
という生き方をしているでしょ  
うか、との問題提起をしたい  
とおもいます。

大聖年に当たって、教皇様  
と教会が求めていることは、  
「あなたのイエス・キリスト  
への信仰をもっともっと深め  
るように、そしてイエスの生  
き方についてほんとうに納得  
するように」というのがメッ  
セージだと思います。

**福島県**  
**カトリック信徒の集い**  
9/17「ひとつになろう」

溝部司教をお迎えして、福  
島県の信徒が、お義理ではな  
く一人ひとりがお互いに深く  
結び合うため、九月十七日  
「集い」を行います。

この日は、郡山ザベリオ学  
園に、各地域から模擬店を出  
していただき、交流の場を確  
かなものとすべく、準備を進  
めています。

**2000年**  
**カトリック青森県の集い**  
テーマは「和解とゆるし」

カトリック青森県の集いが、  
九月二十四日に八戸市の八戸  
プラザホテルで二〇〇〇年大  
聖年にちなんで「和解とゆる  
し」をメインテーマに、「新  
世紀・出会い・触れあい・分  
ちああい」をサブテーマとし  
て行われます。  
九月二十四日(日)は、午前十

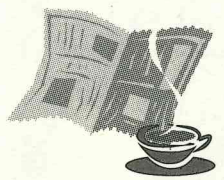
時に開会、記念ミサは十時三  
十分から、溝部司教司式で行  
われ、十二時三十分から十五  
時までは、参加者の懇親会が  
持たれ、お互いの出会いを喜  
び合い、キリストの心を分か  
ち合って、再び社会に派遣さ  
れる恵みを求めます。

**石巻教会新築**

**献堂式は昨年十二月**

昨年来建設であった石巻教  
会が新しく建て直されました。  
旧聖堂は昭和三十三年に建  
てられ老朽化したので、新築  
されたものです。

新築物は、司祭館と聖堂が  
一体化したもので、一階部分は、  
約六十三坪、二階は約二十六  
坪、総床面積は約九十坪です。  
総建築費は五千万円で、不  
足額が出ましたが、県内各方  
面の協力によって、立派に建  
て直されました。



**北仙台教会が**  
**献堂五十周年を祝う**

カトリック北仙台教会・献堂  
五十周年記念ミサと祝賀会が、  
八月十三日(日)教区内外の方々  
を招いて、盛大に開催されま  
した。

記念のミサは、九時半から  
始まり、出席者四百人、仙台  
教区長溝部司教の司式によっ  
てさげられました。説教は  
ドミニコ会管区長田中信明神  
父が行いました。十一時半か  
らは、勝山館において、祝賀  
パーティーが開かれ、田中管  
区長のあいさつ、来賓として  
溝部司教があいさつをのべま  
した。  
主任司祭ラトゥール神父は  
「戦後の混乱がまだ続いてい  
た五十年前、ドミニコ会士故  
ビソネット神父様のご尽力に  
よって北仙台教会が設立され、  
一九五一年八月、当時東北最  
大であった聖ドミニコ大聖堂  
の献堂式が行われました。…」  
と述べた一文を献堂五十年記  
念誌にそえて出席者に手渡し  
しました。

# 各地からの便り

## ◇仙台・中央地区

復活祭で大人十七人、外国人を含んだ幼児十五人が洗礼を受けました。

### 聖週間

四月十六日教区管理者鷹嘴達衛神父の司式によって、枝の祝日のミサが行われました。枝を持った会衆の行列、入堂した大聖堂では、ミサがささげられました。



▲大船渡教会での洗礼 前列佐々木神父の左熊谷三重子さん、右佐々木清一さん

更新があり、祭壇奉仕者に、川崎忠紀さん（青森・浪打教会出身）と木村国基さん（宮城・塩釜教会出身）の二人が任命されました。

聖木曜日主の晩さんの夕べには、仙台・中央地区では、五教会の信徒が元寺小路教会に集まり、鷹嘴神父、笛気、エメ、和野、小野寺、ダビデの五人の神父の共同司式でミサがささげられました。

四月二十二日(土)復活の主日「復活の聖なる徹夜祭」ミサがささげられ、中央地区で大人十七人が洗礼を受けました。元寺小路教会の司式は鷹嘴神父。

四月三十日には、仙台に住む外国人の幼児十五人が、エメ神父から洗礼が授けられました。エメ神父は、フランス語、スペイン語、日本語を使いながら式を進めました。

### ◇岩手・大船渡教会 復活祭に二人受洗

私ども大船渡教会から、ニュースを発信できることを喜びとします。当教会では復活祭に新しく二人兄弟姉妹が生まれた喜びを遅くなりましたが、お伝えします。

復活の聖なる徹夜祭、今春落成したばかりの海の星幼稚園の真新しい祭壇の前で洗礼式が行われました。

出席者は、諸聖人の連願の声の流れ、司祭の「悪霊の拒否の確認」など、自分の洗礼を思い出し、思いを新たにしたいときでした。佐々木博神父さまが大船渡教会を担当されて五回目の復活祭でした。

毎年一人が私たちの共同体に加わって来ましたが、今年には兄弟姉妹二人が加わって喜びは二倍でした。小さな教会といえども神さまはちゃんと見守っていて下さいませ。(大船渡・山川孝子)

### 力障連

#### 第七回高崎大会に 仙台教区から 十九人参加

カトリック障害者連絡協議会第七回浦和教区高崎大会が七月一日(土)・二日(日)の二日間、ホテルメトロポリタン高崎を中心にして開催されました。

この大会には、全国から約百五十人の障害者が参加、仙台教区から十九人(仙台から



九人、青森から三人、岩手から三人、福島から四人)の障害者が参加し、分科会や懇親会において、日本の各地から来た人々と交流を深めました。

今大会のテーマは「もっとも弱い人の声がかきこえますか」で、大会第一日目の七月一日(土)、午後二時から、横浜教区の古川 勉神父が「教会が神の国建設に、より寄与するために、障害を持つ者からの提言」と題して基調講演を行いました。

十五時十五分から二時間、五つの分科会に分かれて行われ、第一「教会における障害者の立場と役割」、第二「障害を生かす福音宣教」、第三「思い切って言ってみよう」、

第四「精神障害について」、第五「知的ハンデイの人が地域で生きる課題」にそれぞれ希望の分科会に参加。夕方六時から懇親会が郷土芸能などの出演もあり、盛大に行われました。

### 第二日 総会とミサ

七月二日は、まず総会が開かれ、山田会長にかわって、中原えみ子事務局長が会長に選出されました。ミサは、岡田武夫大司教司式によって行われました。(写真)

### 湯本教会 前庭を整備して 駐車場確保

福島県湯本教会(現主任田中丈夫神父)では、昨年、手狭だった駐車場を確保するため七百万円をかけて、前庭の整備を行いました。

工事は、平成十一年六月から行われ、完成しました。この駐車場整備については、前主任司祭吉田昌民神父が大変尽力されました。

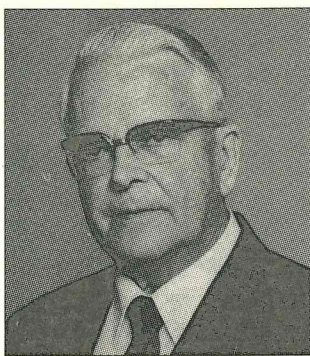
ベトレヘム会

ヨハネ神父様帰天

八十歳

四月十五日

スイス・インメンゼー



去る四月十五日(土)午前十一時ヨハネ・シュルテンベルゲル神父様はスイス・インメンゼーにおいて心不全で帰天なさいました。享年八十才。神父様は一九四六年四月一四日二十六才で来日、遠野、宮古、花巻、千厩、四ツ家教会などのベトレヘム会担当の諸教会と一九六五年に創立された盛岡聖心幼稚園に帰国するまで園長として奉職されました。一九九八年九月二十九日仙台教区での五十年の仕事を終えられ帰国しました。奇しくも、

帰天は五十四年前の受階日の翌日、同じ場所でした。神父様

の来日が昭和二十三年という戦後の混乱期からの司牧でしたが、一九七四年「岩手福音宣教百年史」を共著で編纂した本の序に「いま教会は危機の中にある。この大切な認識と、いままでのような目にみえる繁栄や驚くべき発展を期待する古い考えをやめて、信者は社会の中にひとつぶの種、核となって影響するよう、神のみ摂理に信頼して進むというあり方を歴史は私たちに教えてくれるでしょう」という預言的な言葉を残しておられる。

戦後の混乱と繁栄を布教という視点に立って見る時宣教師の役割と使命を強く自覚されていたのでしよう。

他方、園長先生として入園仕立ての園児が大声を上げて泣きわめく姿を「春闘」と呼んで「ご自分は門のところ陣取り、逃げ出す子のために待機し、テレビタレントの真似をして『大丈夫だあー』と言いながら相手して楽しんでおられた」(現園長中村滋子先生)

沖繩サミットに

債務帳消し要望書を提出

NGO

「ジュビリー2000」

国際会議開く

最貧国の債務の全面帳消しを求めて、七月十九日から二十一日まで沖繩名護市で開かれた主要国首脳会議に対し、同時に開かれた、非政府組織国際会議「ジュビリー二〇〇〇」からの要望書を、提出し債務帳消しの実行をせまりました。

最貧国の抱える返済不可能な債務を二〇〇〇年末までに帳消しにしようという運動は日本では、五〇万人の署名に、全世界では一七〇〇万人の署名があつて、昨年六月のケルンサミットでは、総額七百億ドルの債務が帳消しされることに同意されました。

今回の沖繩サミットでは、九ヶ国、十五億ドルの債務削減実施の確認にとどまっていまいましたが、今後は国連ミレニアムサミット(九月)とIMF年次総会(九月ブラハ)に向けてアピールする予定です。

仙台教区でも、正義と平和

仙台協議会が、四月二十九日

(土)に、債務帳消しキャンペーン日本実行委員会から北沢洋子さんを招いて、講演会を行いました。

仙台キリスト教連合  
合同平和祈禱集会で  
李元淳氏(カトリック  
信徒・韓国歴史学者)  
が講演

仙台キリスト教連合主催のエキユメニカルな運動を行っている「八・一五平和を求めるキリスト者合同祈禱集会」が、八月十三日(日)、韓国から歴史学者でカトリック信徒の李元淳先生をお招きして、元寺小路教会で行われました。

李元淳先生の演題は「歴史におけるゆるしと和解ーキリストにある韓国の兄弟から日本の兄弟姉妹へ」で、八月十三日十四時から約一時間半講演(左上写真)、平和を求める祈禱を行い、茶話会のあと十七時頃終了しました。

李先生は、十四日は「李先生と共に日韓の歴史をめぐる」バスツアーに同行し、宮城県内の石巻・韓国の英雄安重根ゆかりの大林寺のある若柳地方を訪ねた。参加者二十九人でした。

小さき花幼稚園園長

京けい子さん

仙台・東北放送(株)の番組審議委員に

の番組審議委員に

仙台・豊屋丁教会併設の小さき花幼稚園園長の京けい子さんが、仙台市の民間放送東北放送株式会社の番組審議委員会にことし四月に就任しました。

京さんは、幼児教育に携わって来た経験に基いて、番組批判、意見を述べていただくことを期待されて委員に選ばれたと聞いております。



引退した

吉田昌民神父

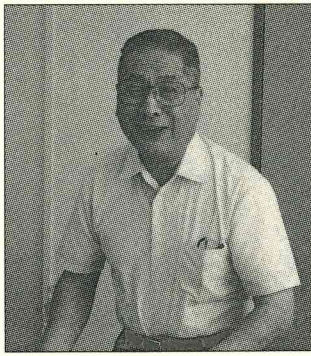
に聞く

思い出すのは  
貧乏コロンビア

での募金

—— 吉田神父さん、引退するには若すぎるのでは ——

「吉田神父」そうなんです。健康の問題があったのです。一九六〇年に司祭に叙階され、精一杯働いて来た積もりです。会津若松の教会に赴任し、働いているとき、脳梗塞で倒れ入退院をくり返した。とにかく言葉はもつれ、計算が出来



なかった。仙台で療養中に、

二回脳出血があって救急車で病院に運ばれた。脳の場合は、何の前ぶれもないのですね。

医者からは、こんど発症したら、もう駄目ですよと言われました。CTで脳を調べて見ると、白い所は出血している。それが何か所かありました。

湯本の教会に赴任して引退するまで、八年間、温泉がよかったのか再発しませんでした。神様のはからいで幸いです。

現在の日常生活は ——

「吉田神父」修道院のミサや休暇中の神父、留守のところの教会へ行ってのミサ、東仙台教会での聖書勉強会などを行っています。それ以外の時間は祈りと読書などに使っています。

—— これまで、四〇年間に印象深いことはどんなことですか ——

### 吉田昌民神父略歴

▽一九二七年東京生まれ。

▽一九六〇年司祭叙階、▽一九六一年元寺小路教会助任司祭、▽一九六四年中南米教会

事情調査並びに視察(一九六

か ——

「吉田神父」司祭になって、

二、三年たった頃、突然コロンビア等の中南米に行つて、資金を集めてくるよう小林司教から命令され、三年間滞在了した。スペイン語もわからず、グアダルペ会の神父に教えてもらい、説教は用意したものを翻訳してもらい、それを暗記していた。コロンビアの教会ではミサの初めと終わりに、

乞食のように手をさしのべて献金をしてもらいました。信者の中には、日本は豊かな国だ。何故貧しいコロンビアからお金を持って行かなくてはならないのか。という人が多数いた。司祭もそうでした。

ある時オートバイでスラム街へつれて行かれて見せられたが、それは悲惨なものでした。ミサは、主日に朝の五時半か

ら二十回ほどあった。そのミサ中で、暗記して来た説教を行い、献金をしてもらった。主日には食事をしないで手を出して献金をねだった。小学校・中学校の方が教会より献金が多かった。ここでも苦しい説明が必要だったのを覚えている。日本はいま経済的には高度成長をしているが、信徒の数は少なく、困っている。布教国である等と言ったので

私は東京育ちで、戦時中盛岡に疎開をして、教会の近くに住んでいました。弟が先に洗礼を受け、姉も受洗、私は旧制浦和高校の時代に洗礼を受け神学校に入る決心をしました。やはり聖霊が働き、神父になるよう招かれたのです。昨年三月に帰天された斎藤神父の手引きがあったことも確かですがね。聖霊が働いていることは人間にはよくわからないことがあります。聖霊の導きに素直に従ったとき、喜びと平安があると思います。

—— これからどんな生活をなさいますか ——

「吉田神父」今仙台教区は、司祭が少ない。もしも、どこ

かの教会が必要なとき、私はお手伝いに行きます。また、新しい司教さんが来られて、一定の役割を指示されるなら引き受ける積りです。

この体調が維持できるなら現役にもどってもよいのです。最近、考えるのです。「愛とは何か」「罪とは何か」についてです。

キリスト教の三つの要素とはまず一愛すること、二ゆるすこと、三仕えることだと言える。

一、キリストは「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」といわれ、「自分と同じように、他人を愛しなさい」とも言われた。二、「ゆるす」のは「七十倍ゆるさなくてはならないのです。また、今のカトリック信者の告白も「罪とは何か」をよく祈ってわかってもらいたい。三、キリストが弟子たちの足を洗ったように、私たちは仕えるために来たのです。

神のいのち、キリストが命じた生き方から離れないようにしなければならぬのです。